

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は、高い学力と高邁な精神を培い、21世紀を担う有為な人材の育成をめざす。

- 1 良識溢れる豊かな人間性を持ち、国際感覚に富んだ、社会に貢献する、リーダーシップを取ることのできる人材の育成を図る。
- 2 学校をめぐる情勢の変化に迅速に対応しうる機能的な組織運営に努め、他校をリードする先進的な学校づくりを展開する。
- 3 「入りたい」「入ってよかった」、保護者や地域社会から「入らせたい」「入らせてよかった」と期待され信頼される学校を創る。
- 4 地域の教育センター的役割を果たしうる、地域の期待と信頼に応える「開かれた学校」をめざす。

2 中期的目標

1 学力の向上と規範意識の醸成

(1) 進学を重視した規律ある学校として大阪を代表する全日制普通科単位制高校の確立

- ア 生徒のニーズの変化に対応し、進路目標の実現に向け常に適切にカリキュラムの研究と編成を行なう。
 - イ 本校での学習活動のみで、難関国公立大学や国公立大学医学部医学科等への合格に必要な学力を育成する。
- ※ 28年度においてセンター試験受験率90%以上、現役進路決定90%以上、国公立大学合格者現役20%以上をめざす。

(2) 「規範なくして学力向上なし」の合い言葉で、安全で安心して学校生活に取り組める環境を確立するとともに維持・発展させる。また、人権意識豊かな人間形成に努める。

- ア 学習指導・生徒指導・進路指導等において他校をリードし、他校の範となりうる工夫、実践に努める。
- ※ 28年度においても一日平均家庭学習時間を府下トップレベルにし、遅刻者数府下最少を維持する。

(3) グローバル社会の中で生きていく人として、特別活動や生徒会活動をとおしてコミュニケーション能力やリーダーシップを育む。

2 先進的で他をリードする学校づくり

(1) 教職員の指導力向上をめざし、授業改善に努めるとともに生徒指導、進路指導面においても指導力の向上をめざす。

- ア 他府県先進校への教師派遣（年4名以上）。

(2) 組織的な協働体制による学校運営の確立

- ア 教職員全員で組織的に校務に取り組めるよう効果的・効率的な組織体制を構築するとともに、常に社会や学校を取り巻く情勢の変化に迅速に、有効に対応できるようその維持・改善に努める。また、教員がより多くの時間を生徒対応に使うことができるよう業務のスクラップ&ビルドを追求する。

- イ 日々の教科指導や講習などにおいても、さらに組織的な対応が可能となるよう「槻の木 学びのスタンダード」の確立を図る。

※ 28年度をめどに ICT の活用により、事務時間の削減と職員会議の回数削減の実現をめざす。

(3) 次代の学校経営の担い手になりうる教員の育成に努める。

3 保護者・地域から信頼される学校づくり

(1) 子どもが「入りたい」保護者が「子どもを入りたい」そして「入ってよかった」「入れてよかった」と地域に信頼され誇りにされる学校づくりを続けていく。学校説明会参加者数の維持に努める。

(2) 地域の教育センター的役割を果たしうる、情報の発信に努め地域の信頼に応える。

- ア 槻の木 MANABI カフェの開催と充実

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問題解決的な学習指導実施。」が 82% (昨年度比 20%増)、「参加体験型など、指導方法の工夫・改善の実施。」は 79% (同 17%増)、「グループ学習など、学習形態の工夫・改善の実施。」が 77% (同 22%増) と、教職員間に時代の要請に応えうる学力に対する認識が深まり、授業改善が進んできている実態が反映したと考えられる。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「規律を守った生活を送っている。」には昨年同様 95%が肯定的だが、「先生は生徒の意見を聞いてくれる。」72%、「悩みや相談に親身になって応じてくれる。」72%、「気軽に相談できる教職員がいる。」49%と低い評価であり、規範を守らせる姿勢とカウンセリングマインドの両面を持った指導が教員に求められているとの認識が必要がある。 ・保護者の 98%が「生活規律・学習規律の確立に学校が取り組んでいる。」、89%が「学校の生徒指導の方針に共感。」と回答。さらに理解をいただけるよう努めていく。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「校長のリーダーシップ発揮」(98%)、「校長の考え方の明確化」(97%)など教職員から高い評価を受ける一方、「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担」(61%)に対しては、将来の教職員の年齢構成の変化等に備えた分掌組織の在り方の研究により解決を図りたい。 ・保護者の「ウェブページをよく見る」が 51% (昨年度 11%増) と増加しており、今年度から改善した更新頻度を維持したい。 ・学校は保護者や地域の人たちから意見を聞く機会を設けている 79%の肯定的回答をいただいているが、さらに発信力を強めたい。 ・学校の施設・設備は学習環境面で満足できる、肯定的回答は 65%と昨年度並みであるが、府教育委員会の協力をいただきさらに改善に努めたい。 	<p>【第 1 回 (7/26)】 さまざまな「変化」に対する槻の木高校の対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦略論的に言えば、何かが起きてからの「環境対応戦略」ではなく、保護者のニーズを先取りし周囲に対して変化を起こす「提案戦略」が重要。 ・教科を動かそうとする校長のマネジメントは組織論から行って間違いない。若い教員を中心とした授業改革を期待したい。 ・行動主義的の学力に加え、構成主義的の学力を身につけさせるため、どのような教材を準備し、生徒同志をどう動かすかが研究されたい。 ・社会で活躍する卒業生の活用について検討されたい。 <p>【第 2 回 (10/25)】 選抜制度変更に伴う広報の在り方、ENGLISH CAMP の実施報告に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生にとって部活動の存在は大きく、オープンスクールでの部員の規律正しい姿やプレゼンテーション力 (部長のコメント) の高さは印象的であり広報として効果的である。 ・中学校は選抜制度改善の趣旨は理解しているので、学習塾等に対して、偏差値ではなくアドミッションポリシーにより学校選択を勧めるメッセージを学校として出すべき。 ・PTA から広報についてのアイデアを出してもらうことについて検討されたい。 ・「いい学校だから」ではなく、「他校との違い」をアピールすべき。 ・大学生との英語での交流を核とした ENGLISH CAMP は、国内での短期間の取組みではあるが、高校・大学双方にとって有意義。継続実施について検討されたい。 <p>【第 3 回 (3/14)】 学校教育自己診断結果を踏まえたキャリア教育の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の実施に当たってはコンセプトを明確にし最終的には体系化が求められるが、他の特色ある学習指導や進路指導の取組みに係る労力とのバランスに配慮した上で、新たな試みを行いながら修正を加え進めていくことが妥当である。 ・厳しい社会の現状を生徒に周知することも必要であり、また、キャリア教育を特設することだけでなく、現行の学校行事を通じて生徒に課題を克服する体験をさせてもよい。 ・他校にはないバインダー型の生徒手帳を活用するなどして、生徒にスケジュール管理をさせることにより、時間の有効的活用が可能になる。 ・大学進学が最終目的ではなく、職業観を醸成した上での進路指導が重要である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上と規範意識の醸成	<p>(1) 学習意欲のさらなる向上とより高い志を育む</p> <p>(2) 規範意識のさらなる向上</p> <p>(3) グローバル人材の育成</p>	<p>ア・カリキュラムの検証を進めるとともに、より生徒の変化に対応したカリキュラムの研究を継続すると共に、講習等のあり方について検討を進める。</p> <p>イ・課題、予習、復習による家庭学習時間（校内での自習を含む）の増加と学習内容の充実に努める。</p> <p>ウ・自己肯定感を高め、より高い志をもって進路に挑戦するよう、担任のみならず進路担当、教科担当等学校全体での教員の研修および生徒面談の充実に図る。</p> <p>エ・学校図書館の更なる活用などを通じて読書習慣や自習習慣の定着を図る。</p> <p>オ・職業観、勤労観育成のための取り組みを行うとともに、校内での大学個別説明会を行うなどして進路指導の充実に図る。</p> <p>ア・遅刻数のさらなる減少に努める。 ・生徒の安全確保のため、自転車指導等交通安全週間などを設け、指導の充実に図る。 ・学年集会、各年行事などあらゆる機会をとおして時間遵守の徹底を図る。</p> <p>ア・姉妹提携校との国際交流等とおして、国際的な視野を育む使える英語力の向上を図る</p>	<p>ア・講座選択者数などを参考に常に検証する。 ・教科会議において検討。</p> <p>イ・25年度2年（10月）、平日81分、休日114分の平均5分増。</p> <p>ウ・センター受験率80%以上、面談時間の増。</p> <p>エ・学校教育自己診断で自習室の活用の増。</p> <p>オ・学校教育自己診断で進路指導に対する肯定的回答の増。</p> <p>ア・学校教育自己診断「規律を守った高校生活を送っている。」生徒・保護者95%の維持 ・事故件数の減少（日本スポーツ振興C申請件数） ・開始時間の把握</p> <p>ア・参加生徒へのアンケート</p>	<p>ア・特別非常勤講師担当講座の適正化を図った。(○)</p> <p>イ・家庭学習時間の平日70分、休日100分ほどで推移。生徒へのはたらきかけや自習室の活用の推奨などが必要。(△)</p> <p>ウ・センター受験率81.4%(◎) 三者面談の回数はほぼ昨年度並みであったが、昨年度から10日間の午後の時間帯を面談習慣とすることにより定着が見られた。(○)</p> <p>エ・図書館の活用76%(昨年度比+13%)(◎) 読書指導への取組み77%(同+26%)(◎) 自習室の活用 昨年同様肯定的回答は35%(△)</p> <p>オ・進路指導に対する生徒の肯定的回答は91%(昨年比+2%)、保護者は87%(同-1%)(○)</p> <p>ア・「規律を守っている」に対する肯定的回答生徒95%、保護者97%。(◎) ・事故件数は98件から71件に減少(日本スポーツ振興C申請件数)(◎) ・行事の時間厳守(◎)</p> <p>ア・姉妹校の都合で、当初予定していたオーストラリアとの交流は中止となったが、国内でのENGLISH CAMPを実施するとともに、予定通りタイ交流生の交流を行い生徒から肯定的な評価を得る。(○)</p>
2 先進的で他をリードする学校づくり	<p>(1) 教員の指導力の向上</p> <p>(2) より組織的で効率的な協働体制の構築</p> <p>(3) 若手教員の育成</p>	<p>ア・校内研修の計画的実施、内容の充実に図る。 ・授業アンケートの結果を踏まえ、教科としての学習指導の改善を図る。 ・先進校への教員派遣を勧め、さらに先進校の取り組みの導入を図る。 ・生徒指導においては、生徒の変化を良く見極め、個々に応じた適切な指導ができるよう指導力の向上に努める。</p> <p>ア・職員朝礼やICTを活用し、教職員間の円滑な情報の伝達と共有を推進する。</p> <p>ア・管理職、ベテラン教員による若手教員の校内研修を年5回以上実施する。</p>	<p>ア・学校教育自己診断において肯定的回答95%を維持。 ・「can-doリスト」の見直し、改善。 ・先進校への派遣4名以上。 ・「学校の生徒指導の方針共感できる」85%維持。</p> <p>ア・教職員間の相互理解についての肯定的回答85%の維持。</p> <p>ア・実施回数、受講者による評価。</p>	<p>ア・研修の計画的実施には教職員の100%が肯定的に回答。89%が教育実践に役立つと評価。教科can-doリスト」に基づく年間目標を立て成果検証を実施することにより、学習指導計画についての教科会議が教職員に定着(92%)(◎) ・6名を派遣予定。(◎) ・生徒指導方針への肯定的回答保護者89%(昨年比+4%)。指導方針の周知に努める。(◎)</p> <p>ア・教職員間の相互理解81%(△) ・ICT機器の授業活用は教職員の昨年同様84%が肯定。(○)</p> <p>ア・スキルアップ研修(校内)5回に加え、他校で実施された研修への参加や、他府県先進校へ視察を行った。(◎)</p>
3 保護者・地域から信頼される学校づくり	<p>(1) 子どもが「入りたい」保護者が「子どもを入りたい」そして「入ってよかった」「入れてよかった」学校づくりの推進</p> <p>(2) 地域への情報発信</p>	<p>ア・進路、生活指導などで実績を積み、それを中学校、中学生・保護者、地域の方々に発信し、信頼にたる学校づくりを進める。 ・体育大会、文化祭、個人面談に加え、進路説明会などをできる限り多く開催し保護者の信頼をさらに得よう努める。 ・本館耐震工事や照度改善に取り組み、より安全な学習環境の充実に努める。</p> <p>ア・槻の木 MANABI カフェの充実により地域の方に学校に来ていただき学校の活動に理解を頂くとともに、学校のもつ知的、人的資源を地域に還元する。</p>	<p>ア・「入って(入れて)よかった」生徒80%以上(H25:77%)、保護者90%以上(H25:92%) ・学校行事に参加したことがある85%以上(H25:85%) ・施設設備の学習環境面で満足できる。70%以上(H25:66%)</p> <p>ア・MANABI カフェへの生徒、保護者地域の方の満足度80%以上をめざす。</p>	<p>ア・「入ってよかった」77%、「入れて良かった」92%。(○) ・学校行事参加86%。(○) ・施設設備の満足度65%(△)</p> <p>ア・アクティブラーニングをテーマとした MANABI カフェ(5月実施)は、生徒や地域の方々に加え、教育関係者が多数参加し、知識の共有が図られ、満足度について否定的な回答は皆無であった。(◎)</p>